COMMUNITY MEDICINE

TAKEDA

vol.7
2024

康生会 武田病院　整形外科

患者さんの人生を支えるのが
整形外科医の願い

患者さんの目標（ねがい）に寄り添うのが整形外科の使命
国内屈指の体制で最良の選択肢を提供

整形外科　副院長
生駒 和也　Kazuya Ikoma

日本整形外科学会：指導医・専門医
日本リウマチ学会：指導医・専門医
日本整形外科学会：認定スポーツ医
日本整形外科学会：認定リウマチ医
近畿足の外科症例検討会：世話人
日本足の外科学会：理事・評議員
日本ダンス医科学研究会：世話人
京都運動器障害予防研究会：副理事長

下肢手術700件超　患者さんにとってのベストを常にめざす

康生会武田病院の整形外科は『すべての整形外科疾患に対し、先端技術および機材を駆使して、高レベル、確実な治療を目指す』ことを診療方針としています。その特徴と言えるのは２次救急に積極的に取り組んでいることで、運動器の様々な疾患・外傷に対応しています。専門外来では、足の外科外来(足の外科センター)、膝の外科外来、脊椎脊髄外科外来、スポーツ整形外科を構え、足・足関節の疾患、関節疾患、脊椎疾患を専門とする医師を擁しています。特筆すべきは下肢の手術件数で、年間７００件超、うち約３００件が足の手術という国内有数の施設です。
全国に先駆け「病院間連携パス」を導入するなどクリティカルパスを積極的に導入･活用しているのも当科の特徴です。

大腿骨近位部骨折、人工股関節全置換術、人工膝関節全置換術、腰椎椎間板ヘルニア、抜釘術などでクリティカルパスを導入し、治療の標準化・水準維持を図っています。
整形外科が扱う疾患は命に関わることが少なく、その治療の主眼は「患者さんの人生を支えること」とも言えます。例えば、痛くて靴が履けない小学生の足を手術し、体育に参加できるようにするなど、障害によって何かが出来なくなってしまった患者さんに寄り添い、最良の解決法を示し治療していくのが我々の使命と考えています。
対象となる患者さんがおられましたら、是非、ご紹介ください。紹介元の先生と一緒に患者さんにとってのベストをめざしてまいります。

2023 年度 手術総件数 956 件

【部位別】

上肢	肩・鎖骨	35 件	下肢	骨盤・股関節	12 件
	上腕・肘・前腕	50 件		大腿・膝・下腿	377 件
	手関節・手指	62 件		足関節・足趾	323 件
脊椎		97 件			

【手術種別】

骨折観血的手術		250 件	外反母趾手術	56 件
靭帯・腱手術		66 件	椎間板ヘルニア手術	13 件
膝関節鏡下半月板手術（切除・縫合）		21 件	脊椎固定術､椎弓切除術､椎弓形成術	78 件
人工関節	股関節	13 件	抜釘手術	131 件
	膝関節	42 件	滑膜切除術（膝）	18 件
	足関節	19 件	滑膜切除術（足）	4 件
大腿骨人工骨頭		101 件	その他	144 件

専門性・質の高い医療を提供

京都の玄関口と言える京都駅前で24時間365日の救急医療を提供する康生会武田病院では、交通事故や落下等による高エネルギー外傷、転倒による骨折など、様々な外傷症例が搬送されます。当科では24時間365日体制でこうした症例に対応するとともに、軽傷の外傷、スポーツ等の運動負荷による組織損傷など幅広い疾患・怪我の治療にも尽力しています。

外傷は当科の全員が対応しますが、それぞれが高度な専門領域を持っておりますので（右図参照）、ケースごとに担当医が責任を持って治療にあたります。症例により「保存療法」と「手術療法」を選択しており、いずれも的確な治療による早期のADL回復を目指し、日本の最先端の治療を施してまいります。

整形外科の体制（2024年10月現在）

理事長	武田 隆司	日本整形外科学会専門医 / 認定スポーツ医 / 運動器リハビリテーション医 ICD 制度協議会インフェクションコントロールドクター、日本人間ドック学会認定医
顧問	大塚 悟朗 関節外科	日本整形外科学会専門医 医学博士
副院長	生駒 和也 足の外科	日本整形外科学会専門医 日本リハビリテーション医学会専門医 リウマチ専門医・指導医、スポーツドクター 日本足の外科学会理事 / 評議員 / 認定医、医学博士
主任部長	小見山 洋人 膝関節・スポーツ	日本整形外科学会専門医 日本体育協会公認スポーツドクター 医学博士
部長	牧 昌弘 足の外科（足部・足関節）	日本整形外科学会専門医 / 認定スポーツ医 / 認定リウマチ医 日本リハビリテーション医学会認定臨床医 日本足の外科学会評議員 / 認定医、医学博士
副部長	後藤 毅 股関節	日本整形外科学会専門医 医学博士
副部長	澤村 和秀 脊椎脊髄外科	日本整形外科学会専門医 / 脊椎・脊髄病医 日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医 医学博士
医長	市丸 昌平 膝・スポーツ	日本整形外科学会専門医 医学博士
医員	新田 悠加	

は得意とする専門領域

足の外科学会評議員２名を擁する国内随一の民間病院

人体で唯一、地面と接しているのが足です。非常に骨が多く複雑で繊細な構造をしているうえ、常に荷重がかかる特殊な領域であり、これを専門とする医師が少ないのが大きな特徴です。足が機能しなければ、車いすでないと生活ができないぐらい非常に重要な器官であり、人生に直接関わる重要な部分と言えます。足の障害は、こどもさんから高齢者まで広く発症し、その治療・解消により患者さんの人生の選択肢やQOLが大きく左右されるため、その期待は非常に大きなものとなります。

これを専門とする「足の外科学」は、膝から下の足首や足の骨・関節・腱・靭帯の外傷、障害および変形を専門的に治療する分野です。当院は京都府立医科大学整形外科・足の外科グループの機能分担病院となっています。

代表的な疾患は、外反母趾・扁平足・強剛母趾・足関節捻挫(外側靭帯損傷)・三角骨障害・フライバーグ病・変形性足関節症・離断性骨軟骨炎・有痛性外脛骨障害・腓骨筋腱脱臼・足底腱膜炎・アキレス腱付着部症などです。

当科では足の外科学会評議員２名（うち１名は理事）を擁し足の外科センターを構える国内随一の民間医療施設です。全国的にも実施施設が非常に少ない「足の人工関節置換術」も行なっています。足のトラブルがありましたら、是非、当科にご相談ください。

関節外科　Joint surgery

膝を専門とする医師２名が幅広く膝の疾患に対応

膝の外科外来は膝の痛みに対する診断と治療を行う専門外来です。膝の痛みの原因は腱・靭帯・筋肉などの関節外の病変と、軟骨・半月板や滑膜、軟骨の裏側を支える骨などの関節内の病変に分かれます。一般的に関節外の病変は保存療法が有効であるのに対し、関節内の病変は手術療法が有効です。手術が有効な膝の病気は、変形性膝関節症、大腿骨顆部骨壊死、関節リウマチが代表と言えます。

当科では膝を専門とする医師２名が、加齢による膝の疾患からスポーツによる膝外傷まで、様々なケースに対応し適切な治療に努めています。

我々は京都府立医科大学整形外科の膝の外科グループに属しており、特に大学附属病院や鞍馬口医療センター、がくさい病院と密に連携しており、病院の内外・グループの内外にわたる広い連携により、患者さんお一人おひとりの症状・背景に応じた医療の提供に努めております。地域の先生方におかれましては、お気軽にご紹介いただけますようお願い致します。

保存療法

保存療法は全ての膝疾患治療の基本で、患者さん全員に詳しくご説明・ご指導しています。患者さんによっては手術を回避できるだけでなく、将来的に手術を検討する場合、手術の長所を最大限に引き出すための準備ともなります。

- **生活指導：食事や有酸素運動を通じた体重の減量**
- **薬物療法：内服や湿布、ヒアルロン酸の関節内注射**
- **理学療法：筋力トレーニングや歩行指導、ストレッチ、温熱などの物理刺激**
- **装具療法：足底板やサポーターの装着**
- **再生医療：自身の脂肪を採取して、幹細胞をとり出し膝に注射する（保険外治療）**

手術

膝の手術は骨切り術と人工関節置換術に分かれます。一般的に軽症から中等症でスポーツや重労働の継続を望まれる活動性の高い患者さんは骨切り術、中等症から重症で日常生活動作の維持を望まれる患者さんは人工関節置換術が適応となります。

- **高位脛骨骨切術：脛骨を切り、O脚からX脚へ矯正**
- **人工関節置換術：傷んだ軟骨と骨をポリエチレンと合金に置き換える**

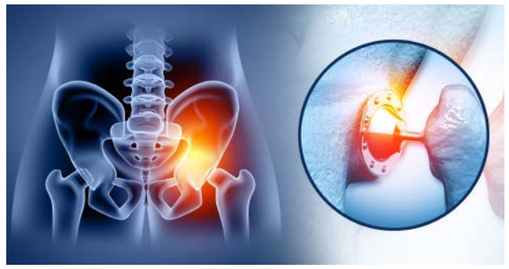
Spine surgery　脊椎外科

股関節

股関節の手術で最も多いのは、変形性股関節症、特発性大腿骨頭壊死症、リウマチ性股関節症です。これに加え、高齢化の加速により骨粗鬆症による大腿骨頭軟骨下脆弱性骨折（大腿骨頚部骨折）が急増しています。いずれも多くは人工関節置換術の適用となり、なかでも変形性股関節症は飛びぬけて多く実施されています。

当科では、患者さんの背景、ご要望をよくお聞きし、保存療法、関節固定術、人工関節置換術、それぞれのメリット・デメリットをご説明し、どの治療を進めていくのがベストかを一緒になって考え、ご提案しています。

股関節の痛みや機能障害でお困りの患者さんがおられましたら、是非、ご紹介ください。



脊椎・脊髄

首から腰までの背骨と背骨の中を通っている脊髄神経の病気を扱う専門外来です。首で多い病気としては、頚椎椎間板ヘルニア、頚椎症性神経根症、頚椎症性脊髄症、頚椎後縦靭帯骨化症で首から手にかけての痛みやしびれ、手指の動かしにくさ、歩行時のふらつき感、排尿排便障害等の症状を伴います。腰で多い病気としては、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、腰椎圧迫骨折（骨粗鬆症性椎体骨折）です。腰痛、お尻からふくらはぎにかけての痛みやしびれ、間欠跛行などの症状を伴います。

治療は生活指導、内服治療、装具療法、体操、注射（神経根ブロック）を行います。保存加療で治療するのが難しい病状の患者さんは手術治療が適応になります。

手術に関しては筋肉や骨組織に対して侵襲の少ない低侵襲手術（除圧術、固定術）を行い、術後の痛みが少なく、早期社会復帰ができるような治療にするようにしています。

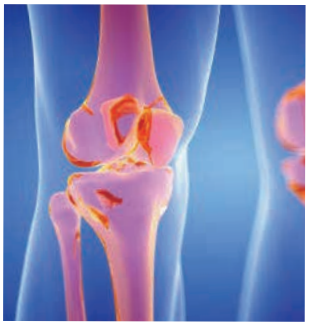
神経の操作を必要とする手術は顕微鏡を主に使用します。骨や靭帯を切除する器械は内視鏡の手術器械を使用します。内視鏡単独の手術と比べて神経組織の確認がより確実で周囲組織への操作がより愛護的に行えます。手術中に3Dイメージ（術中CT装置）と脊髄神経モニタリングシステム（神経へのストレスをチェックする装置）を使用して安全で正確な治療を行っています。

再生医療　Regenerative medicine

膝再生医療に関するお問い合わせ

康生会武田病院　TEL.075-361-135 2
月～金曜日（祝日除く）午前9:00～午後5 :00

手術によらない膝関節治療の新しい選択肢



変形性膝関節症は軟骨が摩耗し疼痛や炎症を起こす疾患です。痛み止めの内服やヒアルロン酸関節注射の効果が持続せずお悩みの方、骨切り術や人工関節手術に不安がある方に、手術によらない「再生医療」という選択肢もあります。ご自身の脂肪組織または血液を用いた２種類の再生医療を提供しております。

治療STEP

一つ目は、ご自身の脂肪組織を採取して、その中から幹細胞を分離して関節内に注射する間質血管細胞群による治療と、幹細胞を培養し数を増やして関節内に注射する培養脂肪幹細胞による治療です。

二つ目は、ご自身の血液からPRP （Platelet-rich Plasma；多血小板血漿）を抽出・濃縮し関節内に注射する治療です。これらの再生医療は関節内の炎症バランスを改善させ、炎症由来の疼痛や軟骨破壊を抑制することを目的とする、安全性に配慮した新しい治療法です。

		① 採取	② 精製	③ 投与	④ 投与後
膝関節症治療（ASC治療）	間質血管細胞（SVF）	脂肪組織を採取	SVFへ加工	SVFを投与	医師が判断した上で帰宅可能 入院は不要 治療当日は飲酒を控える
	培養脂肪幹細胞		脂肪組織を培養	幹細胞を投与	
PRP（多血小板血漿）治療	血液	血液を採取	PRPを採取	PRPを投与	

※イラストは SVF のイメージです

※詳細は、たけだ膠原病リウマチクリニック HPの「膝関節症治療」をご確認ください。

医療法人 財団 康生会
たけだ膠原病リウマチクリニック

康生会武田病院
患者サポートセンター
（医療機関専用）

【お問い合わせ】
TEL.075-361-135 2（直通）
FAX.075-361-133 7（直通）

【受付時間】
月～金曜日　午前8:30～午後7:00
土曜日　午前8:30～午後5:00

※日曜日・祝日・年末年始はお休みさせていただいております。
※受付時間外は医事部にて対応いたします。▶075-361-1351（代表）

患者サポートセンター
康生会武田病院

武田病院グループ